本誌はコスモス ニュースレター EMC & 安全 無料ショート版です
ご購読案内: https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/
コスモス・コーポレイションホームページ: https://www.safetyweb.co.jp/

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2023-04-01　No. 151

株式会社 コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation
〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1　https://www.safetyweb.co.jp/

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全　目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary 2
IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(1/2) 3
IEC: 新規格リスト 7
ISO: 新規格リスト 8
UNECE: 車両規制調和世界フォーラム第 188 回セッション(2/3) 9
UNECE: UN 規制 No. 10 – 改訂 Rev.6 – 修正 Amend.2　が発効 11
UNECE: 内陸交通委員会は、電気車両の普及を促進するために行動を起こす 11
国際テーマ: IECEE の新ウェブサイト: 国際認証スキームに関する情報および概要が掲載 12
国際テーマ: Nemko のサウジアラビア認定の範囲が欧州製品に拡大 12
国際テーマ: 無線送信機器に関する中国の新規制: 証明書の要発行時間を短縮化 13
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲 14

USA: FCC: 機器認可プログラムに関連する規格の参照の更新－ET Docket No. 21-363 15
USA: FCC: KDB: 5.925～7.125GHz 帯で運用する U-NII 6GHz デバイスの証明取得 16
USA: DOE: 環境保全プログラム: テレビセットの試験手順 16
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知 17
USA: ANSI/UL: 新規格リスト 18
USA: IEEE: 新規格リスト 18
カナダ: ISED 無線標準仕様、RSS-247 第 3 版 - DTS、FHS 等デバイス、コメントを募集 19
カナダ: RABC：ワイヤレス電力伝送基準等の規制基準に関する今後の協議を期待 19
EU: 低電圧指令の整合規格: 家庭用および類似用途の電気機器等 5 規格が官報公表 21
EU: 医療機器規制の移行期間延長に関する欧州理事会の投票結果を歓迎 21
EU: ネット ゼロ産業法: EU をクリーン テクノロジー製造及び環境に配慮した雇用の本拠地に 22
英国 UK: UKCA: 低電圧機器規制の指定規格が更新: 5 規格が追加 23
EU: CENELEC: 新規格リスト 23
EU: ETSI: 新規格リスト 26
オーストラリア: ACMA は、無線通信機器の規制等を変更、保護シンボルの決定を再制定 26
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト 27

中国: CNCA: 新エネルギー自動車の動力電池をカスケード利用する製品の認証業務開始 28
中国: CQC: 携帯型電子機器用リチウムイオン電池及び電池パックの安全認証に関する新規格 28
中国: CQC: 携帯型デジタル機器用モバイル電源認証の新版規格の実施に関する通知 29
中国: 新規格リスト 30
台湾: BSMI: 「検査対象の一般家電機器商品の関連検査規定」を改正し、即日施行する 30
台湾: BSMI: 「濾水器・浄水器およびフィルター付き加温飲料水機器商品の検査作業規定」 31
台湾: BSMI: 「台湾高効率太陽光発電モジュール技術規範」の改正を通知し、即日発効 32
台湾: 新規格リスト 32
韓国: 「放送通信機資材等試験機関の指定及び管理に関する告示」一部改正通知 32
韓国: 電気用品安全基準（130 種）廃止告示 33
韓国: 告示第 2022-0458 号 電気用品安全基準(2 種)改正における誤り修正(1 種)の告示 33
韓国: 「電気用品及び生活用品安全管理運用要領」及び「電気用品安全基準」改正告示 34
韓国: KS 新規格リスト 35

総務省: 情報通信審議会 情報通信技術分科会（第 170 回）から: CISPR 会議結果概要(2/2) 37
総務省: 令和 4 年度無線設備試買テスト中間報告（第 2 次）の公表 41
総務省: デジタル簡易無線の高度化等に係る制度整備: 第 6 諮問案への答申 41
総務省: 自動運転時代の “次世代の ITS 通信” 研究会（第 2 回）配布資料 42
経済産業省: 日本産業規格（JIS）を制定・改正しました（2023 年 3 月分） 42
経済産業省「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部を改正」に対する意見募集 43
経済産業省: 「自動車運転の衝突を回避する制御システム」に関する国際標準が発行 44
国土交通省: 無人航空機のレベル 4 飛行に係る第一種型式認証を行いました 45
国土交通省: マツダ「CX-60」の安全性評価結果を公表します！～得点率 94%を獲得 46
厚生労働省: コスモス社 医療機器認証の業務範囲追加 46
ちょっといっぷく～小クイズコーナー　FDA の証明ラベル 14
コスモス・コーポレイション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内 20
社長の独り言 47

IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 - 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(1/2)

- CISPR 25 第 5.0 版 2021-12 車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法 の概要を報告する。
- 本第 5 版は、2016 年に発行された第 4 版を取り消し、置き換える。本版は、技術的な改訂からなる。本版には、前版に対して次の重要な技術的変更が含まれている:
  a) 新しい周波数帯を含める、b) TEM セル関連の附属文書の削除、c) 測定の不確かさに関する附属文書を追加、d) 全体的な改善。
- 本文書に規定された試験手順と限度値は、①車両の放射性エミッション、および、②コンポーネント/モジュールの伝導性/放射性エミッションに関するものである。このうちのコンポーネント試験は、車両試験に取って代わるものではない。

UNECE: 車両規制調和世界フォーラム第 188 回セッション(2/3)

車両規制調和世界フォーラム 第 188 セッションが、ジュネーブで、2022 年 11 月 14～16 日に開催された。

- **B. 1958 年協定の管理委員会 (AC.1) XIV. 既存の規制の修正案と正誤表、および新しい規制の提案**
  下記等の国連規制に変更がった：
  No. 163 車両警報システム(盗難発生警報装置)
  下記の新国連規制が承認された：
  No. [166] 前方および側方に極近接する脆弱な道路利用者に関する国連規制
  No. [167] 脆弱な道路利用者の直視に関する国連規制

USA: FCC: 機器認可プログラムに関連する規格の参照の更新－ET Docket No. 21-363

- 報告および命令 ET Docket No. 21-363「FCC の機器認可プログラムに関連する規格の参照の更新」が発行された。今回の報告および命令によって下記等 4 規格が参照により組み込まれた:
  -- “米国規格 放射エミッション試験サイトの妥当性確認の方法：1GHz～18GHz” (ANSI C63.25.1:2018)
  -- “免許不要ワイヤレスデバイスの適合試験手順の米国規格” (ANSI C63.10:2020)

USA: FCC: KDB: 5.925～7.125 GHz 帯で運用する U-NII 6 GHz デバイスの証明取得

- FCC 規則パート 15 のサブパート E に基づき、5.925～7.125 GHz 帯で運用する U-NII 6 GHz デバイスの証明を取得するための要求事項に関する質問と回答。
- ここに記載する 4 件のガイドが証明を取得するためのガイドである。さらにもう一つ、ドラフト 987594 U-NII 6 GHz devices 5.925-7.125 GHz DR02-45002 が、すべての 987594 関連の付属資料に対する参考ガイドであり、利用可能である。

EU: 低電圧指令の整合規格: 家庭用および類似用途の電気機器等 5 規格が公表

- 2023 年 3 月 13 日付け委員会実施決定 2023/600 により、欧州低電圧指令の官報公表の整合規格に家庭用および類似用途の電気機器規格、照明器具規格等 5 件規格が、追加された。

総務省: 情報通信審議会 情報通信技術分科会（第 170 回）から: CISPR 会議結果概要(2/2)

IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(1/2)

Summary

CISPR 25 第 5.0 版 2021-12　車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法　の概要を報告する。

- 本第 5 版は、2016 年に発行された第 4 版を取り消し、置き換える。本版は、技術的な改訂からなる。本版には、前版に対して次の重要な技術的変更が含まれている:
  a) 新しい周波数帯を含める、b) TEM セル関連の附属文書の削除、
  c) 測定の不確かさに関する附属文書を追加、d) 全体的な改善。
- 本文書に規定された試験手順と限度値は、①車両の放射性エミッション、および、②コンポーネント/モジュールの伝導性/放射性エミッションに関するものである。このうちのコンポーネント試験は、車両試験に取って代わるものではない。但しコンポーネント 試験は、実際の車両が利用できなくても、コンポーネントが評価できるメリットがある。
- 本文書には、周波数範囲 150 kHz から 5925 MHz（従来の上限 2500 MHz が 5925 MHz に変更）での、限度値と無線妨害の測定に関する手順が含まれている。本文書は、車両等、および、車両等での使用を目的とした電子/電気部品に、適用される。

- 4 つの充電モードが定義される: 充電モード 1、充電モード 2、充電モード 3、充電モード 4 であり、充電モード 4 は、「車両が EVSE に接続され、そこから車両に DC 電力を供給し(オフボード充電器を使用)、信号/制御線および/または有線ネットワーク線を介して車両と充電ステーション間の通信が行われる」と定義される。
- 「6　コンポーネントとモジュールの測定」項には、①伝導性エミッション – 電圧法、②伝導性エミッション – 電流プローブ法、及び、③放射エミッション – ALSE(吸収体配列シールド室)法の三種が規定されている。一つの方法だけではコンポーネントとモジュールの全振る舞いを掴み切ることができないからである。
- 「測定の不確かさ」に関する 4 件の付属文書が新規追加された。同じ車両のアンテナが受信したエミッションの測定、及びコンポーネント/モジュールからのエミッションの測定、それぞれに対し、測定計装の不確かさ、及び測定に関する不確かさバジェットを情報文書として記載している。

CISPR 25: 2021　車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法　Vehicles, boats and internal combustion engines - Radio disturbance characteristics - Limits and methods of measurement for the protection of on-board receivers

（以下解説文で、ローマン体（立体）は規格本体のテキストそのものであり、斜体は編集人によるテキストである）

序文

CISPR 25 は、CISPR 小委員会 D: 「車両搭載の電気・電子機器や内燃機関を動力源とするデバイスに関連する電磁妨害」によって作成された。
本第 5 版は、2016 年に発行された第 4 版を取り消し、置き換える。本版は、技術的な改訂からなる。本版には、前版に対して次の重要な技術的変更が含まれている:

a) 新しい周波数帯を含める、
b) TEM セル関連の附属文書の削除、
c) 測定の不確かさに関する附属文書を追加、
d) 全体的な改善。

株式会社コスモス・コーポレイション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

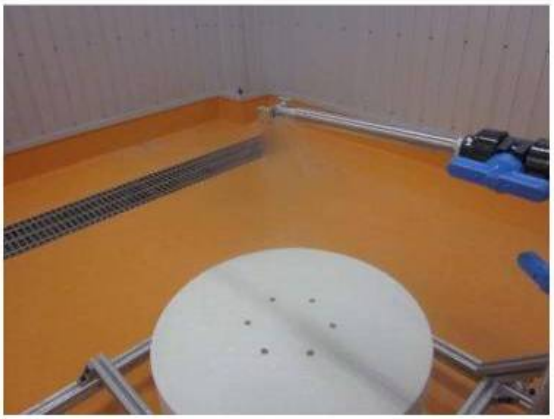
（JIS D 0203 対応）

対象試験記号：R1 / R2 / S1 / S2

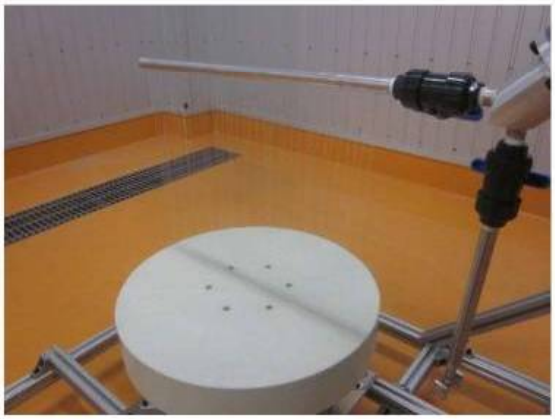
評価実施内容

散水試験	R1・・・	水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験
	R2・・・	間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・	直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
	S2・・・	強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重：45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ：実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 ：〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1
URL ： www.safetyweb.co.jp　E-mail ： sales@cosmos-corp.com
【お問い合わせはCS部まで -- TEL:0598-30-5225(直通), FAX:0598-30-5571】
株式会社コスモス・コーポレイション

社長の独り言

2023 年 3 月 19 日
濱口　慶一

国が新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを季節性インフルエンザ並みの 5 類に引き下げていただいたおかげで、やっとたくさんの行動規制が解除され、活動もおよそ 3 年前の状態に戻せることになりました。しかしごくわずかですが、感染事例もまだ完全になくなったとはいえず、なかなかマスクを完全に取れる状況には至っていないようです。個人的には、幸運にも 74 年間の人生でインフルエンザの感染経験が過去 2 回程しかありません。新型コロナウイルスワクチンの予防接種も 5 回ほど受けましたが、何の影響もなく業務をしてまいりました。

長岡技術科学大学の社会人コースで学んできましたが、3 月 24 日には同級生を代表して、修士過程卒業の学位授与の代表を務めることになっています。高卒の私には論文を纏めることは初めてで、指導教員からの厳しい指導で何とか提出でき、卒業となりました。コロナ禍により WEB 授業が大半で、新潟まで出向いた対面授業が大幅に少なくなったので、通学経費を大きく抑えることができました。私に続いて現在 2 名の社員を同学に送っており、1 名は今年から 2 年に進級し、もう 1 名は幸運にも新規に入学できた女子社員となっています。学業をうまく卒業できたと分かると、本来の実務に強制的に戻され、長岡で学んだ事を生かした実務遂行を心がけていきたいと強く決意するこの頃です。

電気用品安全法での登録評価機関への再登録を認めていただいてから、電気用品調査委員会にも復帰となりました。最初の会議で監督省庁から、IEC 規格の JIS 規格化を推進しますと発言されて少し驚きましたが、IEC 規格の JIS 規格化はかなり早いスピードで進みそうです。このことは確かに国内企業にとっては、製品の設計・開発時の製品安全に対する考え方を少し変更しなければならないことになりますが、IEC 規格化が完全に完了すると、日本企業には大きなメリットが生じることになることに気づいていただきたいと私は考えます。コスモスのように、民間の独立した第三者認証機関の試験レポートが、例えば IECEE の CB スキームに基づく CB 証明書・CB レポートとして、各国での相互認証に利用できることになります。IEC 規格の JIS 化は、民間評価試験所の販売している独自の製品安全サービスマーク申請にも受け入れられる可能性が出てきたと言えると理解しています。弊社のような民間の独立した第三者検査機関が増えることを強く希望します。

最後になりますが、製品安全評価業界に、少し間違った見解を意識的に流している機関があることに私は危惧しています、それは“認証機関はいかなるコンサル業務もしてはならない”との見解です。コスモスは以前登録検査機関を取り消されたことがありますが、実は復帰の活動をする中で、ISO/CASCO 国内委員会委員長、ISO/IEC 17065 対応 WG 主査であった住本守様のご指導をおよそ 2 年受けてきました。何とか登録検査機関に復帰したいとの私の願いに、まずは私の指導を受けなさいということで、弊社で ISO/IEC 17065 の勉強会を始めていただきました。日本で多分私達ほど、長期にわたりご指導を受けた組織はないと思います。その時のテキストの“ISO/IEC17065: 2012（JIS Q 17065: 2012）製品認証機関に対する要求事項－解説と適用ガイド　監修：ISO/IEC17065 対応 WG　編集委員長　住本守、出版：日本規格協会”の 18 ページの“(2)コンサルティング”から、“製品認証の依頼者に対してしてはならない”ことが読み取れます。これはコスモスが認証する製品に対しての禁止であり、例えばコスモスを競合と称する他機関への認証を依頼する製品に対して、コスモスがコンサルティングすることを許可していることを意味します。例えば UL 申請される製品の対応規格に基づいて、コスモスは UL 申請される製品に対して弊社の経験や IEC 規格の理解でコンサルティングすることは許されると私は理解していますので、読者の皆様には住本様の残したこの解説書をお読みいただきたいと思います。

まもなく桜の満開の季節になります。多分その後は日本ミツバチもたくさん集めた蜜をお腹に入れて分峰時期に入り、うまく行けば、自宅の周りに置いている巣箱に入ってくれるかもです。結果は来月にご報告できると思います。春先は気候も不安定な時期です、体調不良になりやすい時期ですので意識し、管理して乗り切りましょう。

コスモス塾として、WEB でのセミナーを定期的に発信していますのでぜひ受講して下さい。私の 30 分の持ち時間には、凄いお宝内容もありますのでぜひお申し込みください。お宝内容の例：どうすれば USB 接続キーボードの UL 申請を少なくすることができるか？への回答です。

では、今月はここで失礼します。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。
重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。
本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。
- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域
- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレイション　CS 部（カスタマーサービス部）まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com

Tel 0598-30-5225　Fax 0598-30-5571

- 発行：年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。
- 価格：各号 2,000 円　(年間購読の場合　1 年 11,000 円)(消費税込)

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレイションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾経済部標準検験局
	CNS:Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2023-04-01 (No. 151)

発行所：　株式会社 コスモス・コーポレイション　本社・松阪事業所
住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1
ホームページ: https://www.safetyweb.co.jp/

発行人：　濱口慶一

編集人：　倉品光雄　iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2023 株式会社コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation
本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。